

研究計画書

ゼミ名	市野ゼミ II	チーム名	1. No (いちの)
タイトル	皆同じで、皆良い?～同調行動を逸脱した人間の心理～		
テーマ群	g)その他		
メンバー			
研究計画内容	<p>1) 研究内容</p> <p>人はしばしば、自分だけが他の人たちと違う行動をとっていることについて、恥ずかしい気持ちになることがある。特にその傾向は集団生活や集団行動を行う際によく見られる。私達はここに着目を置き、「他人と違う行動をとることは恥ずかしいことなのか?」という研究テーマをもとに研究を行う。</p> <p>2) 研究方法</p> <p>まず、「なぜ人は他人と違う行動をとると恥ずかしいと思うのか?」その起因についていくつかの参考文献を元に考えていく。亀田達也・著「モラルの起源-実験社会学からの問い」、著・うらべまこと「ファッションの構造と今後の課題」などの論文や文献を参考に考えると、ヒトには先天的に他人と同じ行動をとろうとする同調性が備わっていることが前提に挙げられる。ゆえに、他人と違う行動をとることはそれを逸脱するため、恥ずかしいと感じるのではないかと推測できる。次に、私たちは「日本人」の生活の面、流行やファッションの面に他の外国人に比べて、強く同調性がみられる傾向があると考えた。例を挙げると、皆がみんな同じようなメイク・服装を行い、同調性が強い服装意識がみられる日本人に対し、外国人は流行もあるが、それぞれが他人の目を気にせず、自分に似合う好きな服を着ているように思う。しかし、先の参考文献では同調行動に日本人や外国人などの人種などは関係なく、人間全体の先天的な傾だと述べられている。では、私たちが感じる違いの原因は何であるのか、いくつかの参考文献を分析・比較していく。分析の結果、実際に外国人の方が同調性が低い場合、日本人と外国人では同調性の違いによってどのようなメリット・デメリットが発生するか考える。そこから、タイトルでもある「皆同じで、皆よい?」という疑問を解く。</p>		